

## 欧州統合の方程式とイギリスの EU 離脱

— 模索と変容に向けて —

(報告の成果と課題)

慶應義塾大学法務研究科教授

庄司克宏

本報告は、拙著『欧州の危機 Brexit ショック』東洋経済新報社（2016 年 9 月 29 日）の内容を紹介するものである。

「欧州統合の方程式」としてのモネ方式とは、①欧州の政治エリートが主導し、②それを民衆が許容するというコンセンサスの下、最終段階を示さないまま、③漸進的に経済統合を進める方式をいう。

「欧州統合の方程式」としてのモネ方式の正当性は、「アウトプット型の正当性」と「インプット型の正当性」である。しかし、EU は、欧州債務危機や難民問題などで判明したように、迅速な問題解決能力を失いつつあり、「アウトプット型の正当性」が危機に陥っている。また、難民問題等において経済不安や治安問題に直面するにもかかわらず、その問題に関する EU の政策決定から疎外されていると感じる市民から支持を受け、欧州懐疑派政党が勢力を伸ばしており、「インプット型の正当性」も危機にある。

そのような中、新たな方程式が模索されている。すなわち、2 速度式欧州とアラカルト欧州である。2 速度式欧州とは、EU の枠内で共通機関が決定して全加盟国が受け入れた政策事項において、前進する能力がある加盟国は先に進む義務を負うものである。アラカルト欧州とは、共通項としての物・人・サービス・資本の自由移動という単一市場の部分だけは全加盟国で共通して維持するが、単一通貨、司法内務協力、外交・安保、政治統合は望む国だけが行うというものである。

イギリスの欧州統合観は、当初より独仏とは異なっており、イギリス人にとって EU は単一市場にとどまるべき存在であった。よって、キャメロン前首相も、EU をアラカルト欧州に変えようと試みた。その結果、EU から英 EU 改革合意をとりつけ、イギリスのアラカルト欧州的な要求は、かなりの程度受け容れられた。しかし、キャメロン首相のこのような対 EU 外交上の成果は、EU からの離脱を主張する議員や有権者からほとんど評価されず、国民投票の結果、イギリスは僅差で離脱という結果となった。

EU 離脱後の英 EU 関係のモデルとしては、準加盟協定によるもの、ノルウェー・モデル、スイス・モデル、トルコ・モデル、カナダ・モデル、WTO モデルが考えられる。ロンドンのシティが金融の中心としての地位を維持するためには、「単一パスポート」が鍵となるが、準加盟協定とノルウェー・モデル以外では単一パスポートを維持できないため、シティがこれまでと同様に金融の中心としての地位を維持することは危うくなる可能性がある。

本報告に対しては、多くの方からご質問およびコメントを頂戴した。離脱派政党は離脱の将来像を示しているのか、市場主導型のアプローチがなぜ市場重視なのか、離脱と新協定締結のタイミングはどのような関係にあるか、WTO 協定モデルの可能性はあるか、といった点である。いずれも今後の研究への示唆に富むものばかりであり、今後の考察の課題としたい。